

製品名: PP2A-C α (リン酸化 Tyr307) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05295

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	35kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP2CA
別名	PPP2CA; Serine/threonine-protein phosphatase 2A catalytic subunit alpha isoform; PP2A-alpha; Replication protein C; RP-C
遺伝子 ID	5515.0
SwissProt ID	P67775
免疫原	抗血清は、ヒト PP2A- α の Tyr307 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 260-309

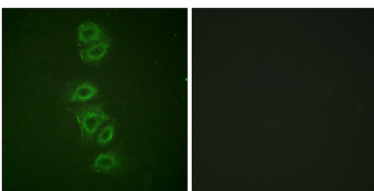
背景

この遺伝子はホスファターゼ 2A の触媒サブユニットをコードします。タンパク質ホスファターゼ 2A は、4つの主要な Ser/Thr ホスファターゼの1つであり、細胞の成長と分裂の負の制御に関与しています。共通のヘテロ多量体コア酵素で構成され、触媒サブユニットと定常調節サブユニットで構成され、定常調節サブユニットは様々な調節サブユニットと会合します。この遺伝子は、触媒サブユニットの α アイソフォームをコードします。[RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。補因子: サブユニットあたり1つの鉄イオンを結合します。補因子: サブユニットあたり1つのマンガンイオンを結合します。機能: PP2A は、ホスホラーゼ B キナーゼ、カゼインキナーゼ 2、マイトジェン刺激 S6 キナーゼ、および MAP-2 キナーゼの活性を調節することができます。SV40 ラージ T 抗原および p53 を脱リン酸化できる。SV40 ラージ T 抗原を脱リン酸化し、特にセリン残基 120、123、677、そしておそらく 679 を脱リン酸化する。C サブユニットの活性が最も高く、次いで AC 型が ABC 型よりも活性が高かった。3つの型すべての活性はマンガンによって強く刺激され、マグネシウムによって刺激される程度は低かった。スモール T 抗原によって阻害されるのは AC 型のみであるが、C 型や ABC 型は阻害されない。PTM: スレオニン (自己リン酸化活性化プロテインキナーゼによる) またはチロシンのリン酸化は、ホスファターゼの不活性化をもたらす。再活性化のメカニズムとして自己脱リン酸化が示唆されている。PTM: Leu-309 が可逆的にメチルエステル化されている。カルボキシルメチル化はホロ酵素の組み立てに関与している可能性がある。細胞周期を通じて変動します。類似性: PPP ホスファターゼファミリーに属します。類似性: PPP ホスファターゼファミリーに属します。PP-1 サブファミリーに属します。細胞内局在: 前中期細胞ではセントロメアに局在しますが、後期細胞では局在しません。有糸分裂中は紡錘体極にも局在します。サブユニット: PP2A は、36 kDa の触媒サブユニット (サブユニット C) と 65 kDa の定常調節サブユニット (PR65 またはサブユニット A) からなる共通のヘテロ二量体コア酵素で構成され、様々な調節サブユニットと会合します。コア二量体に結合するタンパク質には、3つの調節サブユニット B ファミリー (R2/B/PR55/B55、R3/B'/PR72/PR130/PR59、R5/B'/B56 ファミリー)、48 kDa の可変調節サブユニット、ウイルスタンパク質、細胞シグナル伝達分子が含まれます。NXN と相互作用し、その相互作用は直接的です (類似性による)。SGOL1 とは間接的に相互作用する可能性があり、おそらく調節サブユニット B56 を介して相互作用すると考えられます。

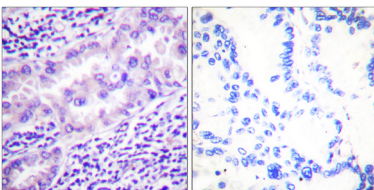
研究分野

卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T CELLTGF-beta;タイトジャンクション;長期抑制;

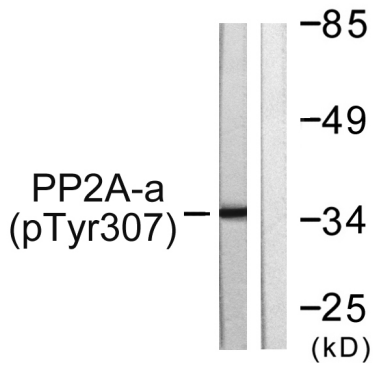
画像データ



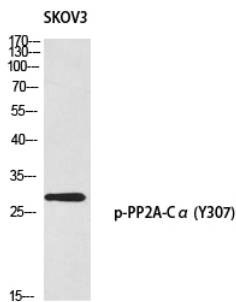
PP2A- α (リン酸化 Tyr307) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



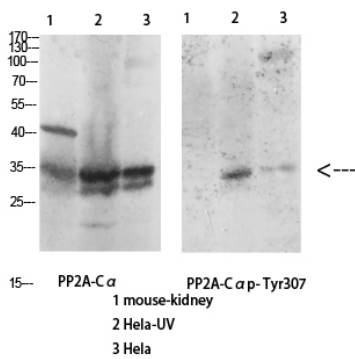
PP2A- α (リン酸化 Tyr307) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PP2A- α (リン酸化 Tyr307) 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



p-PP2A-C α (Y307) 抗体を用いた SKOV3 のウェスタンブロット解析。抗体は 1:1000 に希釈した。



1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。